

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
 【部門区分】第 6 部門第 1 区分
 【発行日】平成 21 年 9 月 3 日 (2009.9.3)

【公表番号】特表 2009-503504 (P2009-503504A)
 【公表日】平成 21 年 1 月 29 日 (2009.1.29)
 【年通号数】公開・登録公報 2009-004
 【出願番号】特願 2008-523933 (P2008-523933)
 【国際特許分類】

G 0 1 B 21/00 (2006.01)

G 0 1 B 21/30 (2006.01)

【F I】

G 0 1 B 21/00 L

G 0 1 B 21/30 1 0 1 F

【手続補正書】
 【提出日】平成 21 年 7 月 13 日 (2009.7.13)

【手続補正 1】
 【補正対象書類名】特許請求の範囲
 【補正対象項目名】全文
 【補正方法】変更
 【補正の内容】
 【特許請求の範囲】

【請求項 1】

ガラスシート材の少なくとも 1 つの属性を測定するために、前記ガラスシート材を支持する装置であって、

ベースと、

前記シート材の反りを測定するための、前記支持部材の上方に配置された距離測定装置と、

前記ベース上に配置され、複数の単位セルの繰り返しパターンで配列された複数の支持部材であって、前記ガラスシート材と前記複数の支持部材のいずれの支持部材との接触も点接触のみであるよう各支持部材が構成された前記複数の支持部材と

を備えることを特徴とする装置。

【請求項 2】

前記ベースが、該ベースの上面上のいずれの点においても平面からのずれが未満 15 μ m である前記上面を更に備えることを特徴とする請求項 1 記載の装置。

【請求項 3】

前記支持部材間の位置関係を維持するために前記支持部材と接触する支持部材拘束装置を更に備えることを特徴とする請求項 1 記載の装置。

【請求項 4】

前記拘束装置が、前記支持部材を受容するための複数の開口部を備えることを特徴とする請求項 3 記載の装置。

【請求項 5】

ガラスシート材の反りを測定する方法であって、

前記ガラスシート材と複数の支持部材のいずれの支持部材との接触も点接触のみであるよう各支持部材が構成された前記複数の支持部材上に、前記ガラスシート材を配置する工程と、

前記ガラスシート材上の複数の位置において、センサから前記ガラスシート材の上面までの距離を測定する工程と、

前記測定された距離を用いて前記ガラスシート材の反りを決定する工程と

を備えることを特徴とする方法。

【手続補正２】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】００１４

【補正方法】変更

【補正の内容】

【００１４】

シート状ガラスの反りを測定する方法も記載される。この方法は、略平面状のシート材と複数の支持部材のいずれの支持部材との接触も点接触のみであるよう各支持部材が構成された複数の支持部材上に、略平面状のシート材を配置する工程と、シート材上の複数の位置において、センサから略平面状のシート材の面までの距離を測定する工程と、測定された距離を用いてシート材の反りを決定する工程とを備える。この方法の一部の実施形態では、センサの移動を較正することが望ましいことがある。較正は、a) 較正平面を支持部材の第１の単位セルと接触させて配置する工程と、b) センサから較正平面までの距離を測定する工程と、c) 較正平面を次の単位セル上に配置する工程と、d) 上記**b)**～**c)**の工程を繰り返す工程とを備える。較正平面は、一度に単一の単位セルのみと接触するのが好ましい。